

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuschoo-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標		今 期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)		2020/11 0.96 倍	2019/11 1.43 倍	前年同月比 -0.47 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新 車	6,515 台	5,906 台	10.31 %
	中古車	2,168 台	2,073 台	4.58 %
	合 計	8,683 台	7,979 台	8.82 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		9~11月 253 件	9~11月 312 件	-18.91 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		37,897 人	43,352 人	-12.58 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	257,718 台	285,315 台	-9.67 %
	出	248,017 台	274,294 台	-9.58 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	272,346 台	322,368 台	-15.52 %
	出	280,408 台	327,816 台	-14.46 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	107,327 台	110,197 台	-2.60 %
	出	109,181 台	109,085 台	0.09 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	235,567 台	262,692 台	-10.33 %
	出	233,989 台	266,793 台	-12.30 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	56,756 台	58,013 台	-2.17 %
	出	49,253 台	52,029 台	-5.34 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	227,659 台	248,324 台	-8.32 %
	出	226,326 台	242,777 台	-6.78 %

前期 7 - 9月 今期 10 - 12月 来期 1 - 3月 4 - 6月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先195社に対し、2020年10月～12月期の景気の現状と2021年1月～3月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

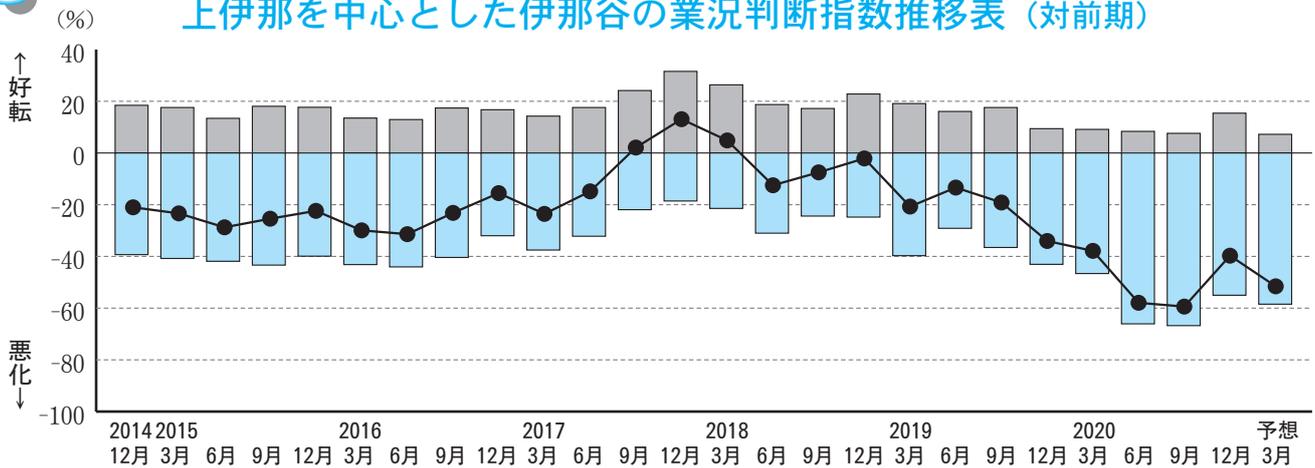
◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は16.2%（前期8.0%）、悪かったとする企業は55.7%（前期67.6%）、DIは▲39.5（前期▲59.7）と20.2ポイントの上昇で、景況感は水面下ながら改善されている。

業種別のDIを見ると、**建設業**が2.4（前期▲17.5）とプラスに転じたほか、**製造業**▲46.4（前期▲71.4）、**卸売業**▲55.6（前期▲70.0）、**小売業**▲47.1（前期▲72.7）、**サービス業**▲69.2（前期▲75.0）、**不動産業**▲50.0（前期▲66.7）で、すべての業種で厳しさが和らいでいる。前期と比較しても**製造業**が25.0ポイント、**建設業**が19.9ポイント、**卸売業**が14.4ポイント、**小売業**が25.6ポイント、**サービス業**が5.8ポイント、**不動産業**は16.7ポイント上昇で景況感は持ち直していると見ている。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は7.6%（今期16.2%）、悪いと予想する企業は59.2%（今期55.7%）、DIは▲51.6（今期▲39.5）の▲12.1ポイントで再びの悪化を予想している。

業種別のDIを見ると、**製造業**▲52.2、**建設業**▲26.8、**卸売業**▲55.6、**小売業**▲60.6、**サービス業**▲69.2、**不動産業**▲83.3ポイントとなっており、全ての業種でマイナス領域を予想している。今期と比較すると、**卸売業**と**サービス業**が±0.0ポイントで今期と変わらない予想であるものの、その他の業種は、**製造業**が▲5.8ポイント、**建設業**が▲29.2ポイント、**小売業**が▲13.5ポイント、**不動産業**が▲33.3ポイントとそれぞれ再び悪化に転じる見通しとなっている。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



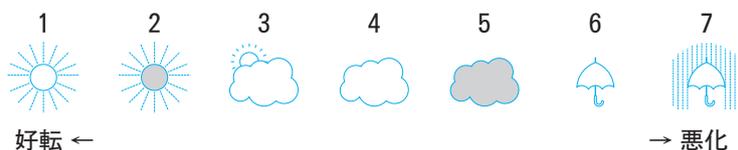
※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2020年	2020年	2020年	2021年
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期予想
総合					
製造業					
建設業					
卸売業					
小売業					
サービス業					
不動産業					



製 造 業 (調査先企業72社 うち回答企業69社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**15.9%**(前期**6.3%**)、悪かったとする企業は**62.3%**(前期**77.8%**)で、DIは**▲46.4**(前期**▲71.4**)、プラス**25.0**ポイントと水面下ながら改善されている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**14.5**(前期**▲38.1**)、受注残のDIは**1.4**(前期**▲50.8**)とプラス領域にて好調に転じており、収益のDIも**▲2.9**(前期**▲50.8**)と大幅改善となった。価格の面では、原材料価格のDIは**▲5.9**(前期**▲14.3**)で上昇したとする企業の割合は減少したものの、販売価格のDIにおいては**▲8.7**(前期**▲6.3**)と2.4ポイント下降傾向を強めている。資金繰りのDIは、**▲10.3**(前期**▲22.2**)と窮屈感は緩和されている。借入れをした企業は**47.8%**(前期**58.7%**)、設備投資の実施をした企業は**38.3%**(前期**42.7%**)であった。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲55.1**(前年同期**▲47.6**)、収益のDIは**▲56.5**(前年同期**▲47.6**)とそれぞれ**▲7.5**ポイント、**▲8.9**ポイントと水面下にて減少幅は拡大している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲52.2**(今期**▲46.4**)と5.8ポイントの下降で、再び悪化傾向が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは**▲29.0**(今期**14.5**)、受注残のDIは**▲27.5**(今期**1.4**)と悪化に転じ、収益のDIも**▲37.7**(今期**▲2.9**)と厳しさが増すと予想している。原材料価格のDIは**▲10.3**(今期**▲5.9**)と上昇が強まり、販売価格のDIにおいては**▲5.8**(今期**▲8.7**)と上昇は弱まる予想である。資金繰りのDIは**▲13.2**(今期**▲10.3**)と窮屈感はやや強まる見通しである。借入れを予定している企業は**20.6%**(今期実施**47.8%**)、設備投資の実施を予定している企業は**35.9%**(今期実施**38.3%**)となっている。

◆DI指数推移

	2019年 10~12月	2020年				予 想 1~3月
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	▲43.8	▲50.8	▲69.2	▲71.4	▲46.4	▲52.2
売 上 額	▲26.6	▲49.2	▲63.1	▲38.1	14.5	▲29.0
受 注 残	▲26.6	▲46.2	▲58.5	▲50.8	1.4	▲27.5
収 益	▲39.1	▲50.8	▲64.6	▲50.8	▲2.9	▲37.7
販 売 価 格	▲1.6	▲9.2	▲3.1	▲6.3	▲8.7	▲5.8
原 材 料 価 格	▲17.2	▲21.5	0.0	▲14.3	▲5.9	▲10.3
原 材 料 在 庫	10.9	9.2	18.5	4.8	1.5	4.5
資 金 繰 り	▲15.6	▲15.4	▲36.9	▲22.2	▲10.3	▲13.2

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年 10~12月	2020年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
借 入 実 施	した	32.8	35.9	41.5	58.7	47.8	20.6
	しない	67.2	64.1	58.5	41.3	52.2	79.4
借 入 難 易 度	容 易	48.2	12.3	13.8	15.9	13.0	—
	不 変	44.8	70.8	72.3	74.6	66.7	—
	難	2.6	6.2	6.2	3.2	7.2	—
	該当なし	4.4	10.7	7.7	6.3	13.1	—

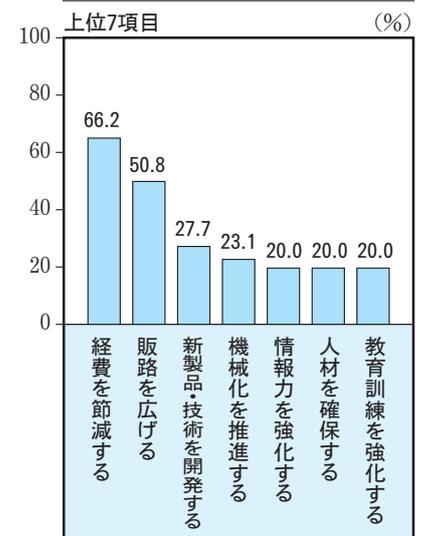
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年 10~12月	2020年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
実 施	した	50.0	40.0	43.6	42.7	38.3	35.9
	しない	50.0	60.0	56.4	57.3	61.7	64.1
状 況	過 剰	7.8	4.6	16.9	15.9	7.2	8.8
	適 正	71.9	76.9	69.3	73.0	78.3	76.5
	不 足	20.3	18.5	13.8	11.1	14.5	14.7
DI	▲12.5	▲13.9	3.1	4.8	▲7.3	▲5.9	

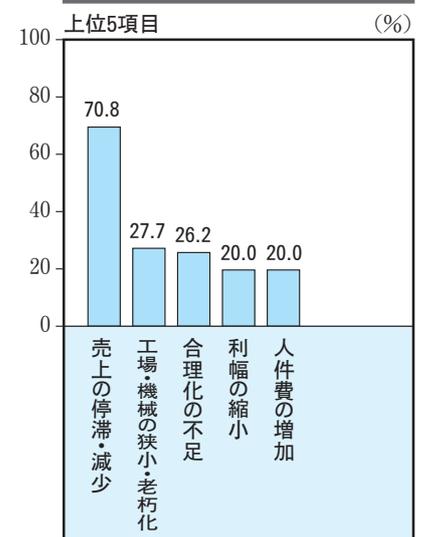
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年 10~12月	2020年				予 想 1~3月	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
残 業 時 間	増 加	14.1	10.8	7.7	7.9	21.7	11.6
	不 変	48.4	46.1	35.4	27.0	40.6	55.1
	減 少	37.5	43.1	56.9	65.1	37.7	33.3
人 手	過 剰	14.1	15.4	41.5	35.5	24.6	18.8
	適 正	60.9	63.1	55.4	58.0	53.7	65.3
	不 足	25.0	21.5	3.1	6.5	21.7	15.9

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



建設業

(調査先企業42社 うち回答企業41社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**26.8%**(前期**15.0%**)、悪かったとする企業は**24.4%**(前期**32.5%**)で、DIは**2.4**(前期**▲17.5**)とプラス**19.9**ポイントで好転し良好感が出た。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲7.3**(前期**▲12.5**)で**5.2**ポイント、受注残のDIは**▲4.9**(前期**▲5.0**)で**0.1**ポイント、施工高のDIは**▲2.4**(前期**▲22.5**)で**20.1**ポイント、収益のDIは**▲7.3**(前期**▲20.0**)で**12.7**ポイントで、それぞれ上昇しており水面下ながら改善している。価格面では、請負価格のDIは**▲2.4**(前期**▲15.0**)で**12.6**ポイント、材料価格のDIは**▲26.8**(前期**▲12.5**)で**14.3**ポイントいずれも上昇が強まっている。資金繰りのDIは**5.0**(前期**▲5.0**)と窮屈感を脱した。借入れをした企業は**42.5%**(前期**46.2%**)、設備投資の実施をした企業は**38.1%**(前期**35.7%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲12.2**(前年同期**▲5.0**)で**▲7.2**ポイント、収益のDIは**▲31.7**ポイント(前年同期**10.0**)で**▲41.7**ポイント、それぞれ減少している。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、業況のDIは**▲26.8**(今期**2.4**)と**29.2**ポイント下降、再び悪化を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲26.8**(今期**▲7.3**)、収益のDIは**▲34.1**(今期**▲7.3**)、受注残のDIは**▲34.1**(今期**▲4.9**)とそれぞれ減少が強まる見通しである。請負価格のDIは**▲17.1**(今期**▲2.4**)で下降を強め、材料価格のDIにおいても**▲17.1**(今期**▲26.8**)と下降する見通しである。資金繰りのDIは**▲7.5**(今期**5.0**)とやや厳しい状況に転じる予想である。借入れを予定している企業は**42.5%**(今期実施**42.5%**)、設備投資の実施を予定している企業は**35.7%**(今期実施**38.1%**)となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	7.5	0.0	▲24.4	▲17.5	2.4	▲26.8	
売 上 額	0.0	▲18.6	▲42.5	▲12.5	▲7.3	▲26.8	
受 注 残	▲15.4	▲25.6	▲25.0	▲5.0	▲4.9	▲34.1	
収 益	▲10.0	▲20.9	▲42.5	▲20.0	▲7.3	▲34.1	
販 売 価 格	▲7.5	0.0	▲12.5	▲15.0	▲2.4	▲17.1	
原 材 料 価 格	▲37.5	▲34.9	▲25.0	▲12.5	▲26.8	▲17.1	
原 材 料 在 庫	0.0	2.4	▲2.4	7.5	4.9	2.4	
資 金 繰 り	0.0	▲20.9	▲20.0	▲5.0	5.0	▲7.5	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	39.5	34.9	52.5	46.2	42.5	42.5
	しない	60.5	65.1	47.5	53.8	57.5	57.5
借 入 難 易 度	容 易	5.4	7.0	10.0	7.7	15.0	—
	不 変	70.3	69.8	70.0	71.8	62.5	—
	難	13.5	7.0	10.0	2.6	7.5	—
	該当なし	10.8	16.2	10.0	17.9	15.0	—

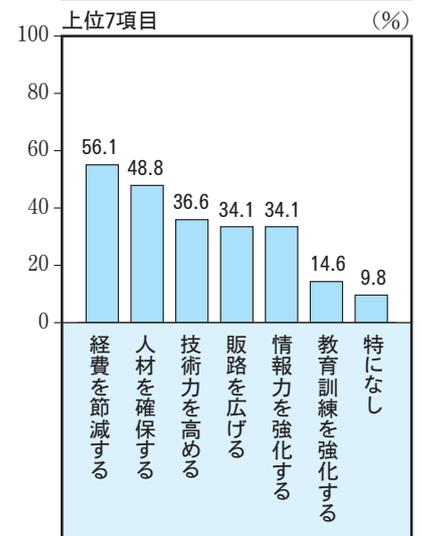
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	37.8	41.7	55.8	35.7	38.1	35.7
	しない	62.2	58.3	44.2	64.3	61.9	64.3
状 況	過 剰	0.0	2.4	2.4	2.5	2.4	5.0
	適 正	85.4	85.7	90.3	87.5	78.1	82.5
	不 足	14.6	11.9	7.3	10.0	19.5	12.5
DI	▲14.6	▲9.5	▲4.9	▲7.5	▲17.1	▲7.5	

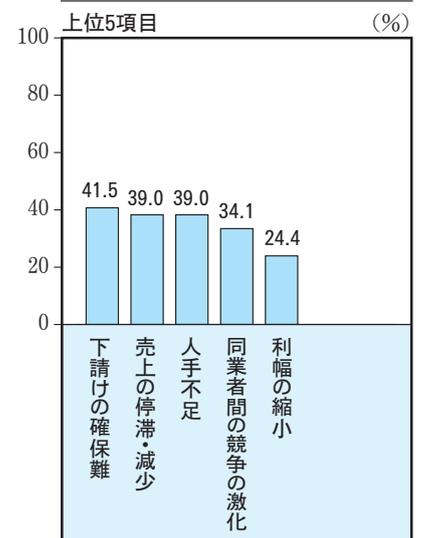
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	12.8	7.0	7.5	17.9	14.6	17.1
	不 変	74.4	72.2	62.5	59.0	68.3	68.3
	減 少	12.8	20.8	30.0	23.1	17.1	14.6
人 手	過 剰	5.0	0.0	4.9	2.5	9.8	10.9
	適 正	47.5	53.5	65.8	57.5	43.9	41.3
	不 足	47.5	46.5	29.3	40.0	46.3	47.8

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業9社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**55.6%**（前期**70.0%**）で良かったとする企業は前期および前々期に続き無かった。DIは**▲55.6**（前期**▲70.0**）と**14.4**ポイント上昇で厳しさはやや緩和している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**0.0**（前期**▲10.0**）と良化した。収益のDIは**▲11.1**（前期**▲10.0**）とやや減少を強めた。販売価格のDIは**11.1**（前期**0.0**）とプラス**11.1**ポイントで上昇傾向となった。仕入価格のDIについては**▲22.2**（前期**10.0**）で上昇に転じた。資金繰りのDIは**0.0**（前期**0.0**）と安定している。借入れをした企業は**11.1%**（前期**30.0%**）、設備投資の実施をした企業は**11.1%**（前期**20.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲55.6**（前年同期**▲30.0**）で**▲25.6**ポイントのマイナス転換となり、収益のDIも**▲66.7**（前年同期**▲10.0**）で**▲56.7**ポイントと減少幅が拡大した。

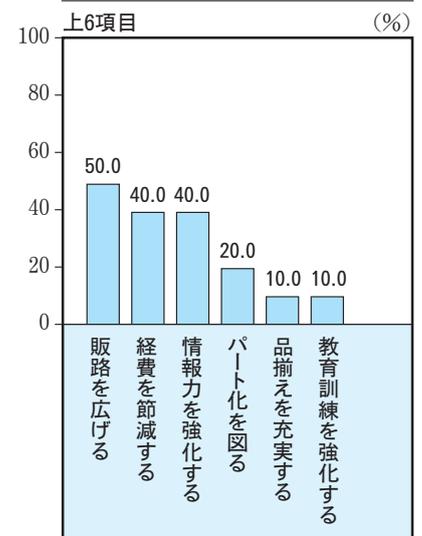
◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**▲55.6**（今期**▲55.6**）と変わらず低迷する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲88.9**（今期**0.0**）と水面下に落ち込み、収益のDIは**▲77.8**（今期**▲11.1**）と減少を強める見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは**0.0**（今期**11.1**）で上昇は落ち着き、仕入価格のDIは**▲11.1**（今期**▲22.2**）と上昇は弱まる見通しである。資金繰りのDIは**0.0**（今期**0.0**）と現状維持の予想である。借入れを予定している企業は**22.2%**（今期実施**11.1%**）、設備投資の実施を予定している企業は**11.1%**（今期実施**11.1%**）となっている。

◆DI指数推移

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲50.0	▲55.6	▲80.0	▲70.0	▲55.6	▲55.6	
売 上 額	▲50.0	▲70.0	▲60.0	▲10.0	0.0	▲88.9	
収 益	▲30.0	▲60.0	▲70.0	▲10.0	▲11.1	▲77.8	
販 売 価 格	30.0	10.0	▲20.0	0.0	11.1	0.0	
仕 入 価 格	▲30.0	0.0	10.0	10.0	▲22.2	▲11.1	
在 庫	10.0	20.0	30.0	20.0	11.1	11.1	
資 金 繰 り	▲10.0	▲40.0	▲20.0	0.0	0.0	0.0	

重点経営施策(複数回答)



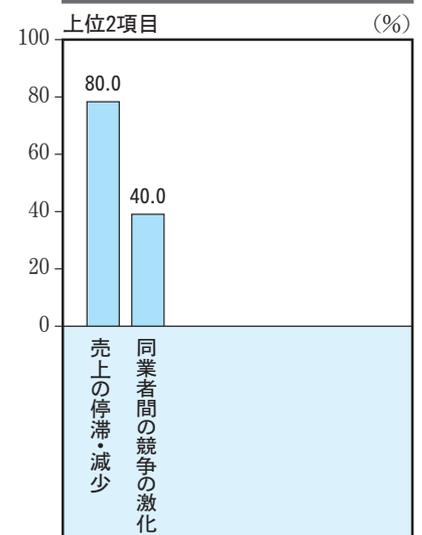
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	40.0	40.0	70.0	30.0	11.1	22.2
	しない	60.0	60.0	30.0	70.0	88.9	77.8
借 入 難 易 度	容 易	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	—
	不 変	70.0	60.0	70.0	70.0	66.7	—
	難	10.0	10.0	10.0	10.0	11.1	—
	該当なし	20.0	20.0	10.0	20.0	22.2	—

◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	10.0	0.0	10.0	20.0	11.1	11.1
	しない	90.0	100.0	90.0	80.0	88.9	88.9
状 況	過 剰	0.0	10.0	10.0	10.0	11.1	11.1
	適 正	90.0	90.0	90.0	80.0	88.9	88.9
	不 足	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
DI	▲10.0	10.0	10.0	0.0	11.1	11.1	

経営上の問題点(複数回答)



◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	10.0	10.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	不 変	80.0	80.0	60.0	80.0	88.9	88.9
	減 少	10.0	10.0	40.0	20.0	0.0	11.1
人 手	過 剰	10.0	10.0	30.0	30.0	11.1	11.1
	適 正	60.0	90.0	70.0	60.0	88.9	88.9
	不 足	30.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0

小 売 業 (調査先企業37社 うち回答企業35社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**17.6%**(前期**6.1%**)、悪かったとする企業は**64.7%**(前期**78.8%**)で、DIも**▲47.1**(前期**▲72.7**)とプラス**25.6**ポイントで水面下ながら改善されている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲22.9**(前期**▲48.5**)、**収益**のDIは**▲28.6**(前期**▲48.5**)とそれぞれ**25.6**ポイント、**19.9**ポイント減少幅が縮小している。**販売価格**のDIは**▲5.7**(前期**0.0**)と下降傾向となったが、**仕入価格**のDIは**▲5.7**(前期**▲18.2**)で上昇が弱まり落ち着きを見せている。**資金繰り**のDIは**▲20.0**(前期**▲9.1**)と窮屈感は厳しさを増している。**借入れ**をした企業は**28.6%**(前期**39.4%**)、**設備投資の実施**をした企業は**18.2%**(前期**17.2%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲58.8**(前年同期**▲34.4**)で**▲24.4**ポイント、**収益**のDIも**▲50.0**(前年同期**▲46.9**)で**▲3.1**ポイントでどちらも減少幅が拡大している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、**業況**のDIは**▲60.6**(今期**▲47.1**)と**▲13.5**ポイントで再び悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲45.7**(今期**▲22.9**)、**収益**のDIは**▲54.3**(今期**▲28.6**)とどちらも減少幅が拡大する見通しである。**販売価格**のDIは**▲2.9**(今期**▲5.7**)と厳しさが和らぐが、**仕入価格**のDIは**▲14.3**(今期**▲5.7**)と上昇が強まる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲22.9**(今期**▲20.0**)とやや窮屈感が強まる予想である。**借入れ**を予定している企業は**11.4%**(今期実施**28.6%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**12.9%**(今期実施**18.2%**)となっている。

◆DI指数推移

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲51.6	▲51.6	▲58.8	▲72.7	▲47.1	▲60.6	
売 上 額	▲9.4	▲22.6	▲64.7	▲48.5	▲22.9	▲45.7	
収 益	▲25.0	▲32.3	▲67.6	▲48.5	▲28.6	▲54.3	
販 売 価 格	9.4	▲3.2	▲29.4	0.0	▲5.7	▲2.9	
仕 入 価 格	▲37.5	▲9.7	8.8	▲18.2	▲5.7	▲14.3	
在 庫	12.5	3.2	▲8.8	▲9.4	2.9	0.0	
資 金 繰 り	▲28.1	▲29.0	▲44.1	▲9.1	▲20.0	▲22.9	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	32.3	25.8	32.4	39.4	28.6	11.4
	しない	67.7	74.2	67.6	60.6	71.4	88.6
借 入 難 易 度	容 易	9.4	20.0	23.5	12.5	5.7	—
	不 変	53.1	46.7	41.2	62.5	65.7	—
	難	15.6	13.3	14.7	9.4	8.6	—
	該当なし	21.9	20.0	20.6	15.6	20.0	—

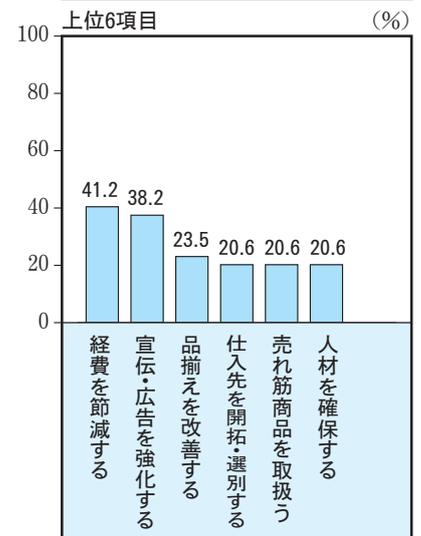
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	29.4	28.1	20.0	17.2	18.2	12.9
	しない	70.6	71.9	80.0	82.8	81.8	87.1
状 況	過 剰	3.1	6.5	5.9	6.1	5.9	6.1
	適 正	75.0	77.4	76.5	81.8	79.4	78.7
	不 足	21.9	16.1	17.6	12.1	14.7	15.2
DI	▲18.8	▲9.6	▲11.7	▲6.0	▲8.8	▲9.1	

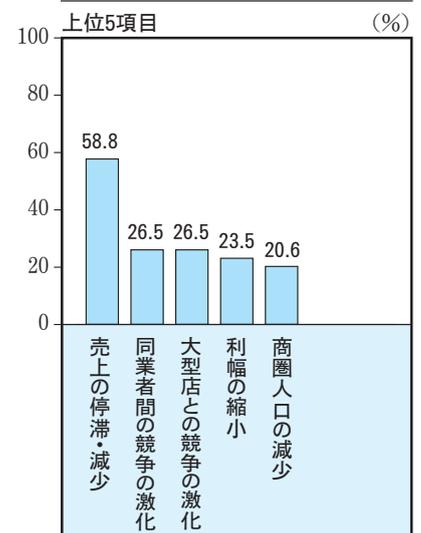
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年		2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	6.3	3.3	11.8	3.0	11.4	2.9
	不 変	81.2	80.0	58.8	69.7	74.3	82.4
	減 少	12.5	16.7	29.4	27.3	14.3	14.7
人 手	過 剰	6.3	6.7	11.8	15.2	5.9	3.0
	適 正	68.7	83.3	67.6	60.6	70.6	75.8
	不 足	25.0	10.0	20.6	24.2	23.5	21.2

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業 (調査先企業28社 うち回答企業26社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は7.7%（前期8.3%）、悪かったとする企業は76.9%（前期83.3%）で、DIは▲69.2（前期▲75.0）と5.8ポイント水面下ながら改善されている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲30.8（前期▲41.7）と10.9ポイント改善、収益のDIにおいても▲34.6（前期▲41.7）と7.1ポイント改善している。仕入価格のDIは▲19.2（前期▲29.2）と仕入価格の上昇幅は縮小している。また、料金価格のDIは3.8（前期▲4.2）と好転し上昇に転じている。資金繰りのDIは▲30.8（前期▲45.8）と厳しさは緩和されている。借入れをした企業は44.0%（前期66.7%）、設備投資の実施をした企業は16.0%（前期18.2%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは▲80.8（前年同期▲23.8）で▲57.0ポイント、収益のDIは▲80.8（前年同期▲9.5）で▲71.3ポイントと、いずれも減少を強めている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは▲69.2（今期▲69.2）と水面下のまま状況は変わらない予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲73.1（今期▲30.8）で▲42.3ポイント、収益のDIにおいても▲69.2（今期▲34.6）で▲34.6ポイントといずれも減少・減益幅が拡大する予想。仕入価格のDIは▲11.5（今期▲19.2）で上昇幅は縮小する見通しであるが、料金価格のDIは▲7.7（今期3.8）と上昇から下降へ転じる見通しである。資金繰りのDIは▲30.8（今期▲30.8）と厳しさは変わらない見通しである。借入れを予定している企業は28.0%（今期実施44.0%）、設備投資の実施を予定している企業は4.2%（今期実施16.0%）となっている。

◆DI指数推移

	2019年	2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	▲52.4	▲50.0	▲73.1	▲75.0	▲69.2	▲69.2
売 上 額	▲38.1	▲45.8	▲65.4	▲41.7	▲30.8	▲73.1
収 益	▲33.3	▲45.8	▲69.2	▲41.7	▲34.6	▲69.2
料 金 価 格	9.5	▲12.5	▲15.4	▲4.2	3.8	▲7.7
材 料 価 格	▲52.4	▲20.8	▲19.2	▲29.2	▲19.2	▲11.5
資 金 繰 り	▲47.6	▲37.5	▲53.8	▲45.8	▲30.8	▲30.8

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年	2020年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	19.0	29.2	60.9	66.7	44.0	28.0
	し ない	81.0	70.8	39.1	33.3	56.0	72.0
借 入 難 易 度	容 易	4.8	9.1	23.1	20.8	13.0	—
	不 変	80.9	59.1	61.5	50.0	60.9	—
	難	4.8	4.5	7.7	8.3	13.0	—
	該 当 なし	9.5	27.3	7.7	20.9	13.1	—

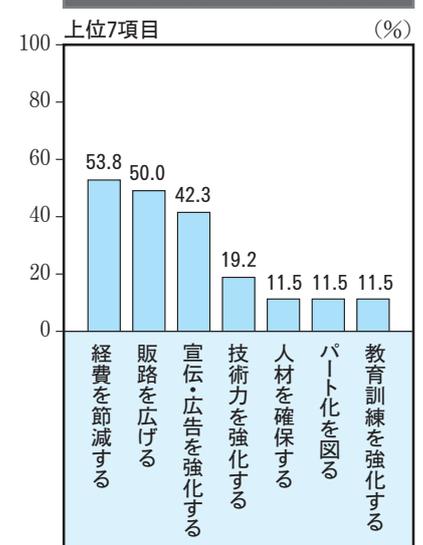
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年	2020年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	36.4	23.1	16.0	18.2	16.0	4.2
	し ない	63.6	76.9	84.0	81.8	84.0	95.8
状 況	過 剰	5.3	4.3	8.0	0.0	7.7	4.0
	適 正	63.1	69.6	84.0	75.0	76.9	84.0
	不 足	31.6	26.1	8.0	25.0	15.4	12.0
DI	▲26.3	▲21.8	0.0	▲25.0	▲7.7	▲8.0	

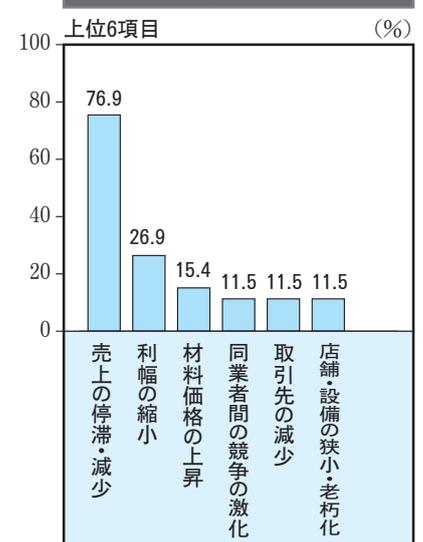
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年	2020年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	10.5	9.5	0.0	0.0	8.0	4.0
	不 変	73.7	52.4	44.0	45.8	44.0	52.0
	減 少	15.8	38.1	56.0	54.2	48.0	44.0
人 手	過 剰	5.0	17.4	32.0	12.5	11.5	23.1
	適 正	55.0	47.8	56.0	70.8	73.1	65.4
	不 足	40.0	34.8	12.0	16.7	15.4	11.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**50.0%**（前期**66.7%**）で、DIは**▲50.0**（前期**▲66.7**）とプラス**16.7**ポイントで水面下ながら改善されている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲83.3**（前期**▲83.3**）、収益のDIは**▲50.0**（前期**▲50.0**）とどちらも変わらず低迷している。販売価格のDIは**▲16.7**（前期**0.0**）と下降へ転じており、仕入価格のDIも**▲16.7**（前期**0.0**）下降へ転じている。資金繰りのDIは、**0.0**（前期**▲16.7**）で窮屈感は無くなっている。借入れをした企業は**33.3%**（前期**33.3%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲66.7**（前年同期**▲33.3**）と減少を強め、収益のDIは**▲33.3**（前年同期**▲33.3**）とマイナス幅に変化はなかった。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**▲83.3**（今期**▲50.0**）と再び悪化が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲33.3**（今期**▲83.3**）、収益のDIも**0.0**（今期**▲50.0**）と回復する方向の見通しである。販売価格のDIは**0.0**（今期**▲16.7**）と下降とする企業の割合が減少し、仕入価格のDIにおいては**16.7**（今期**16.7**）と変わらず良好の見通しである。資金繰りのDIは、**0.0**（今期**0.0**）と窮屈感無く安定する見通しである。借入れを予定している企業は**33.3%**（今期実施**33.3%**）となっている。

◆DI指数推移

	2019年	2020年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
業 況	▲16.7	▲16.7	▲60.0	▲66.7	▲50.0	▲83.3
売 上 額	▲50.0	▲33.3	▲80.0	▲83.3	▲83.3	▲33.3
収 益	▲50.0	▲16.7	▲80.0	▲50.0	▲50.0	0.0
販 売 価 格	▲16.7	0.0	▲20.0	0.0	▲16.7	0.0
仕 入 価 格	16.7	16.7	20.0	0.0	16.7	16.7
在 庫	▲33.3	▲33.3	▲60.0	▲16.7	▲33.3	▲33.3
資 金 繰 り	33.3	33.3	20.0	▲16.7	0.0	0.0

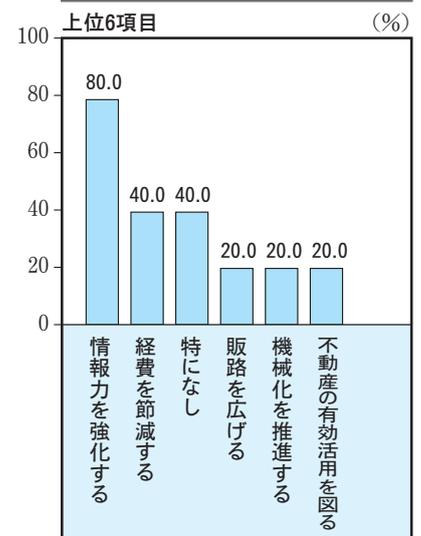
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2019年	2020年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	16.7	33.3	40.0	33.3	33.3	33.3
	しない	83.3	66.7	60.0	66.7	66.7	66.7
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	66.7	83.3	100.0	83.3	83.3	—
	難	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	—
	該当なし	33.3	16.7	0.0	8.4	0.0	—

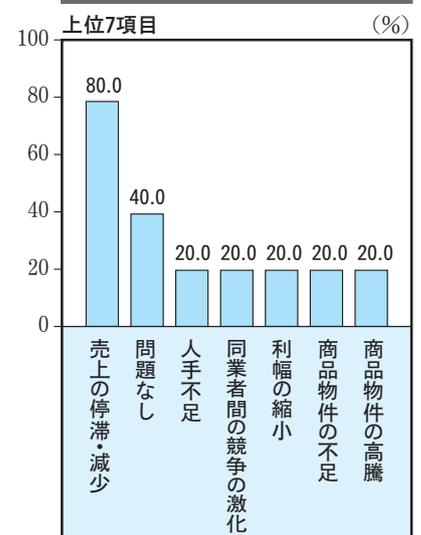
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2019年	2020年				予 想	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	100.0	83.3	80.0	50.0	80.0	100.0
	減 少	0.0	16.7	20.0	50.0	20.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	83.3	80.0	83.3	80.0	80.0
	不 足	0.0	16.7	20.0	16.7	20.0	20.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 2021年(令和3年)の経営見通し

問1 貴社では、2021年の日本の景気をどのように見通していますか。

総合では、「悪い」とした企業が最も多く50.5%、続いて「やや悪い」が36.6%、「非常に悪い」が7.5%と、悪い方向の予想は全体の94.6%を占めた。反対に「やや良い」とした企業が1.1%、「良い」が0.5%で、「非常に良い」との回答は0.0%であった。また、「普通」との回答は3.8%であった。

業種別に見ても、「悪い」の回答が最も多かったのはサービス業57.7%、小売業57.1%、建設業56.1%、卸売業55.6%、「やや悪い」の回答が最も多かったのは製造業で43.5%であった。不動産業では「悪い」と「やや悪い」の回答がそれぞれ50.0%であった。サービス業に「良い」が3.8%、製造業に「やや良い」が2.9%あった。また、建設業、卸売業、小売業、不動産業では「やや良い」「良い」「非常に良い」の回答は無かった。

「コロナワクチンの状況次第」の特筆回答もあった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0
3. やや良い	1.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4. 普通	3.8	2.9	2.4	0.0	2.9	11.5	0.0
5. やや悪い	36.6	43.5	39.0	44.4	31.4	15.4	50.0
6. 悪い	50.5	40.6	56.1	55.6	57.1	57.7	50.0
7. 非常に悪い	7.5	10.1	2.4	0.0	8.6	11.5	0.0

問2 貴社では、2021年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。

総合では、「やや悪い」とした企業が最も多く39.2%、続いて「悪い」が30.1%、「普通」が19.9%、「非常に悪い」が5.9%、「やや良い」が4.3%、「良い」が0.5%の順で、「非常に良い」との回答は無かった。

業種別に見ても、「悪い」の回答が最も多かったのはサービス業57.7%、卸売業55.6%で、「やや悪い」の回答が最も多かったのは不動産業83.3%、建設業48.8%、製造業40.6%であった。小売業では「悪い」と「やや悪い」の回答がどちらも37.1%で多い回答となった。また、「やや良い」の回答は、卸売業で11.1%、製造業で8.7%、サービス業で3.8%、サービス業には「良い」の回答も3.8%あった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0
3. やや良い	4.3	8.7	0.0	11.1	0.0	3.8	0.0
4. 普通	19.9	20.3	29.3	22.2	17.1	7.7	16.7
5. やや悪い	39.2	40.6	48.8	11.1	37.1	23.1	83.3
6. 悪い	30.1	20.3	22.0	55.6	37.1	57.7	0.0
7. 非常に悪い	5.9	10.1	0.0	0.0	8.6	3.8	0.0

問3 2021年において貴社の売上額の伸び率は、2020年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

総合では、全体の52.7%が「減少」、21.1%が「増加」の伸び率を予想しているが、「変わらない」とする企業が最も多く26.3%となっている。「減少」で多かったのは「10%未満の減少」が21.0%、「10~19%の減少」が17.7%、「増加」で多かったのは「10%未満の増加」が11.3%、「10~19%の増加」が5.4%の順となった。

業種別にみると、「変わらない」の回答が多かった業種は、不動産業33.3%、製造業31.9%、建設業29.3%の順となっている。「10~19%の減少」が多かったのは、卸売業44.4%、不動産業33.3%、サービス業19.2%で、「10%未満の減少」が多かったのは、小売業37.1%、建設業26.8%、サービス業19.2%であった。また、サービス業では「30%以上の増加」の回答も15.4%あった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 30%以上の増加	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0
2. 20~29%の増加	2.2	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 10~19%の増加	5.4	8.7	4.9	0.0	0.0	7.7	0.0
4. 10%未満の増加	11.3	13.0	9.8	22.2	11.4	3.8	16.7
5. 変わらない	26.3	31.9	29.3	22.2	22.9	11.5	33.3
6. 10%未満の減少	21.0	13.0	26.8	0.0	37.1	19.2	16.7
7. 10~19%の減少	17.7	14.5	12.2	44.4	20.0	19.2	33.3
8. 20~29%の減少	8.1	5.8	12.2	11.1	2.9	15.4	0.0
9. 30%以上の減少	5.9	7.2	4.9	0.0	5.7	7.7	0.0

